

単水栓据付説明書 (お客様にお渡しください)

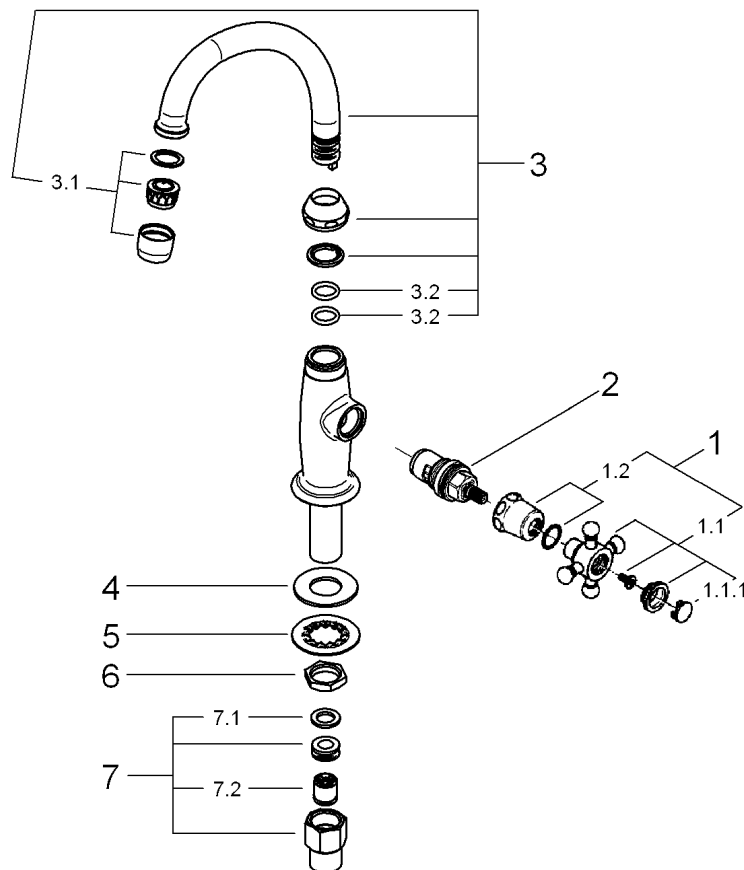
機種名 (ハンドル開栓方向)	一般地用品番	寒冷地用品番	一般地寒冷地共用品番
アラベスク (右回転)	JP250901	JP251001	
レバータイプ (右回転)			JP5274**
レバータイプ (右回転)			JP5272**
レバータイプ (左回転)	JP0121**		

据付業者さまへのお願い

- 製品の機能が十分に発揮されるように、この据付説明書の内容にそって正しく取り付けてください。
- この据付説明書に記載されていない方法で据付され、それが原因で故障が生じた場合は、商品の保証を致しかねますのでご注意ください。
- 据付完了後、試験運転を行い、異常が無いことを確認するとともに、「取扱説明書」にそってお客様に使用方法、お手入れの仕方を説明してください。
また、この説明書は、お客様で保管頂くように依頼してください。

分解図

※品番によっては、図と現品の形状が一部異なることがあります。



図番	名称
1	ハンドルセット
1.1	ハンドル
1.1.1	キャップ
1.2	化粧リング
2	セラミックヘッドパーツ
3	吐水口
3.1	エアレーター(マウザー)
3.2	Oリング
4	スポンジパッキン
5	ワッシャー
6	締付ナット
7	逆止弁
7.1	1/2 パッキン
7.2	逆止弁

安全上の注意

据付前にこの「安全上の注意」をよくお読みの上、正しく据付してください。

ここに示した注意事項は、状況によって重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

⚠注意

お客様に引き渡す前に凍結が予想される場合は水を抜いておいてください。

寒冷地仕様の水抜き方法は、取扱説明書を参照ください。

※凍結破損で漏水し、家財を濡らす財産損害発生の恐れがあります。

据付完了後は、配管接続部分及び水栓から、水漏れの無いこと、レバー、ハンドルが閉じていることを確認してください。

※漏水で、家財を濡らす財産損害発生の恐れがあります。

※開栓方向が右回転と左回転の二種類がありますので、開閉の方向に注意してください。

使用条件

● 給水、給湯圧力

◇貯湯式温水器（ボイラー、電気温水器）と組み合わせる場合

流動圧で最低必要圧力(0.05Mpa [0.5kgf/C㎡])～(最高圧力0.74Mpa [7.5kgf/C㎡])の範囲とします。

給水・給湯圧力はできるだけ同圧（最大3：1以内）になるようにしてください。

◇ガス給湯器（比例制御式：16号相当）と組み合わせる場合

流動圧で最低必要圧力(A+0.05Mpa [0.5kgf/C㎡])～(最高圧力0.74Mpa [7.5kgf/C㎡])の範囲とします。

※Aはガス給湯器の最低作動圧力です。

※以上は下記の条件を想定して設定されて降ります。

レバー、ハンドルは全開です。

ガス給湯器との組合せ条件が最も悪い冬期条件（給水温度5℃、吐出温度40℃）によるものです。

給水圧力はガス給湯器直前における流動圧です。

ガス給湯器の温度調節は最高温度（60℃）設定です。

◇給水圧力が0.74Mpa [7.5kgf/C㎡]を超える場合は、市販の減圧弁等で適正圧力に減圧してください。

● 水勢の調節及び器具の点検を容易にするために、別途止水栓の設置をおすすめします。

● 給湯に蒸気を使用しないでください。

● 水栓下部を点検出来るように必ず点検窓を設けてください。

据付前の注意

● 給水配管が右側、給湯配管が左側に配管されていることを確かめてください。

● 給水は上水道に接続してください。

※井戸水、温泉水など異物を多く含む水には使用できません。

● 開梱、取り付けの際には商品の表面に傷をつけないように十分に注意してください。

● 必ず配管中の異物（ゴミ、砂等）を完全に洗い流してください。

● 寒冷地仕様は不凍栓等を設置した寒冷地仕様配管設備でないと使用できません。

● 配管接続部を隠ぺいしないでください。水切棚に取り付ける場合、必ず水受けを設けスラブへの防水を行ってください。

● 給水・給湯管緩み防止の為、給水・給湯配管は動かないように確実に固定してください。

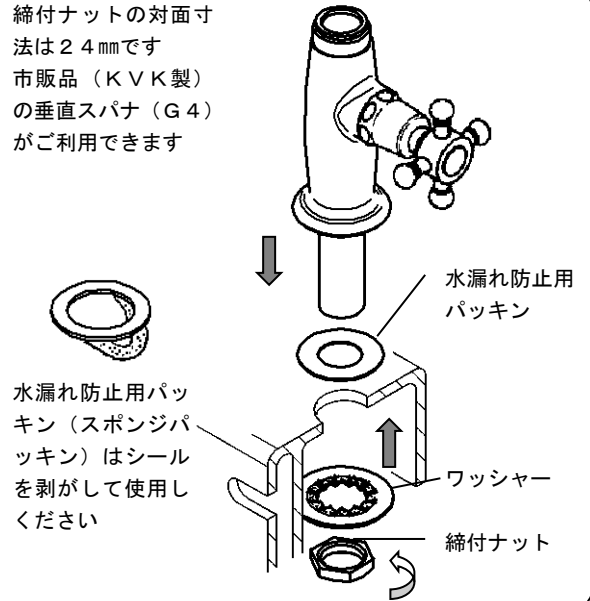
● 逆止弁（接続）アダプターの接続ねじは平行ねじ G1/2 です。テーパねじ（TP1/2, R1/2）には使用しないでください。また止水には付属のパッキンは必ず使用してください。

据付手順

1. 本体の取り付け (図1参照)

- ① 本体もしくは穴に水漏れ防止用パッキン(スポンジパッキン)のシールを外して貼り付けます。
- ② 本体をカウンター上部から取り付け穴に挿入します。正面に向くようにセットしカウンターうらからワッシャーを挿入し、締付ナットで締め付けてください。
※水漏れ防止用パッキンが取り付け穴に落ち込んでいないことを確認してください。
※本体が確実に固定されていることを確認してください。動く場合は、再度締付ナットを締め直して下さい。
※固定には市販品の垂直スパナ等を使用して確実に締め付けてください。

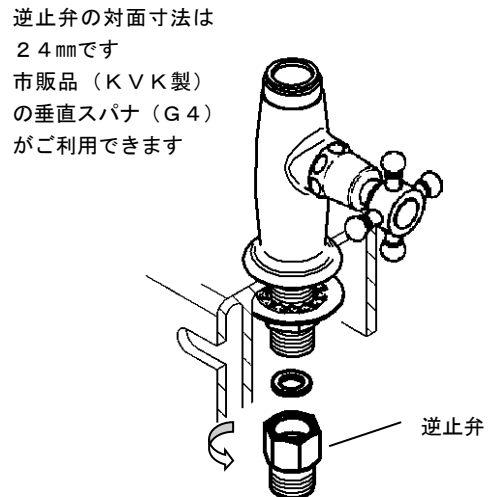
図1



2. 逆止弁の取り付け (図2参照)

- ① 同梱の逆止弁を本体の接続ネジにねじ込み、確実に固定してください。
- ② 寒冷地用、一般地寒冷地共用は必要ありません。
※締付は、200~300kgf·cmのトルクで行ってください。初期の締付が弱いと漏水の原因になります。
※寒冷地用、一般地寒冷地共用には、付属しておりません。

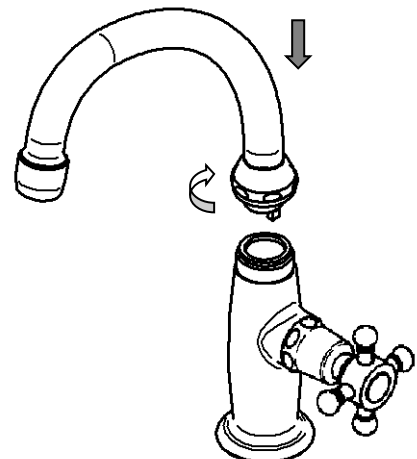
図2



3. 吐水口の取り付け (図3参照)

- ① 吐水口を正面に向け、吐水口取出口に差し込んでください。
- ② 袋ナットを工具(30mmスパナ)等で本体取出口にねじ込んでください。
※組み立ててあった場合にも、以下の確認をお願いいたします。
※吐水口の回転がスムーズであることを確認してください。
※360°回転です。

図3

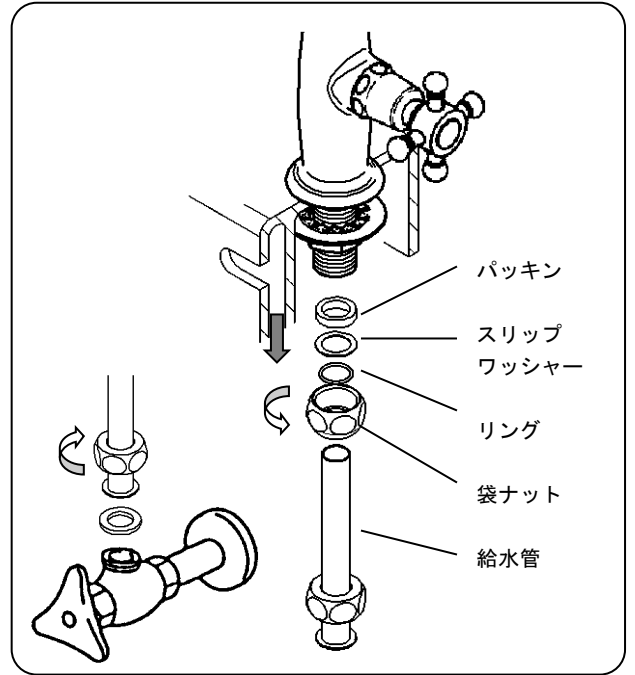


市販の給水管

4. 給水管、袋ナットの接続 (図4参照)

- ①取付脚への差込代(約20mm)を確保して、給水管(止水栓等に付属)を切断します。
- ②給水管に袋ナット、リング、スリップワッシャー、及びパッキンの順序に組み付けます。
- ③給水管を取付脚に約20mm差し込み、袋ナットは、はじめに手でいっぱいまでに締め付けてから、工具で3/4~1回転増締めしてください。
- ④給水管の袋ナットを止水栓に固定します。
※締付は、150~200kgf・cmのトルクで行ってください。初期の締付が弱いと漏水の原因になります。

図4

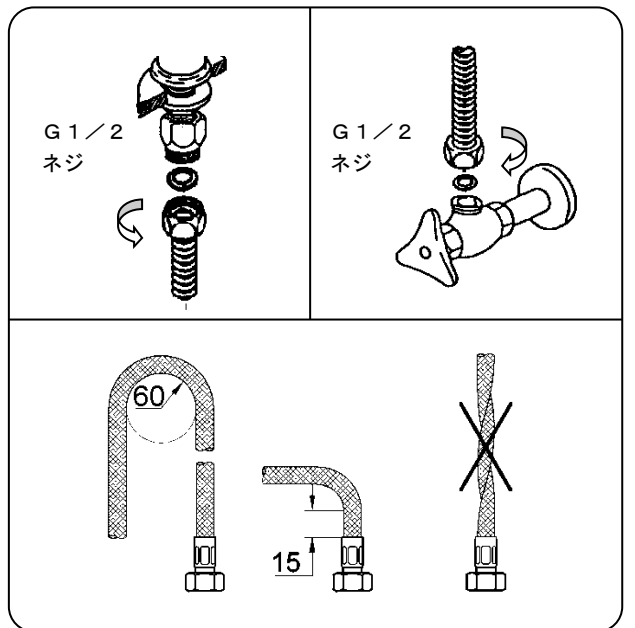


市販のフレキチューブ

5. 給水管の取り付け (図5参照)

- ①市販のフレキチューブの袋ナットを逆止弁にねじ込み、確実に固定してください。
- ②もう一方の袋ナットを止水栓にねじ込み、確実に接続してください。
※フレキチューブがねじれないように配管してください。ねじれて配管されると、加圧した際ホースを取り付けたナットの緩みの原因になります。
※曲げ半径(60mm)よりも小さく曲げて使用しますと、ホースが折れることがあります。折れた部分から早期破壊を生じる可能性があります。施工時には、最小曲げ半径(60mm)よりも小さく曲げないように、ご注意ください。
※接続の端面から極端にフレキチューブを屈曲して、施工しないでください。
※締付は、200~300kgf・cmのトルクで行ってください。初期の締付が弱いと漏水の原因になります。

図5

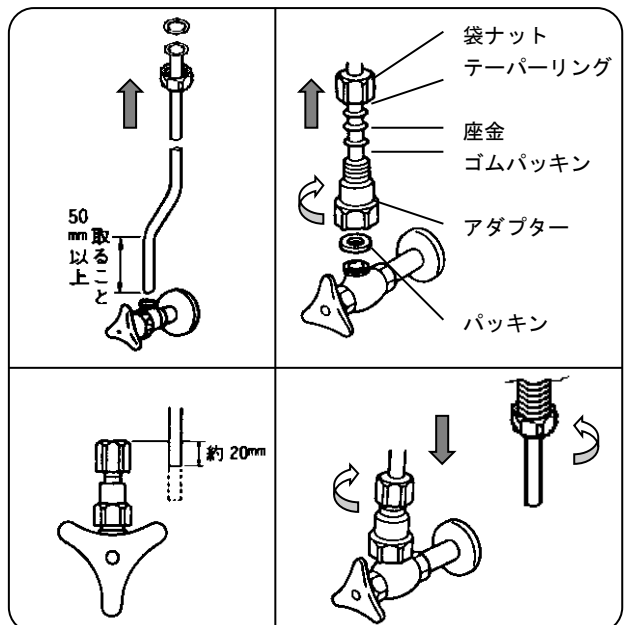


別売の12803000、12901000、12042000

6. 給水管、アダプターの接続 (図6参照)

- ①別売の接続パイプ(12803000)に別売の接続ナット(12901000)のねじが上向きになるよう差し込んでください。
- ②接続パイプを図の通り、止水栓の取り出し芯に合うように曲げてください。
※止水栓より50mm以内では、パイプを曲げないでください。
※パイプはなるべくゆるやかに曲げ、垂直部分が長くなるようにしてください。
※パイプがつぶれないように注意してください。
- ③止水栓に別売の接続アダプター(12042000)を仮固定した後、給水・給湯パイプの差込代20mmを確保し、余った部分をパイプカッター等で切断してください。またバリが出来た場合は必ず取り除いてください。
- ④給水パイプに袋ナット、テーパリング、座金、ゴムパッキンの順に入れて、逆止弁に差し込んでください。
- ⑤仮固定しておいたアダプターを止水栓にねじ込み、確実に固定してください。
- ⑥接続ナットにパッキンを差し込んで、本体の接続ネジにねじ込み、確実に固定してください。
- ⑦最後に、給水パイプを逆止弁にしっかり差し込み、スパナ等で完全に締め付けてください。
※締付は、200~300kgf・cmのトルクで行ってください。初期の締付が弱いと漏水の原因になります。

図6



取り付け後の確認

取り付け完了後、必ず下記の項目を確認してください。

1. 接続部の水漏れ（図7参照）

吐水、止水を数回くりかえした後、図の箇所を点検します。

- 止水栓と逆止弁の接続部。
- 逆止弁と給水管の接続部。
- 給水管と本体の接続部。
- 本体とハンドルの接続部。
- 本体と吐水口の接続部。

※特に、この部分は通水後漏水のない事を必ず確認し、万が一漏水が確認された場合パッキンを新品に取り替えた上、再度規定のトルクで締付を行ってください。

2. 水量・湯温の調節（図7参照）

お使いいただく現場で、適量・適温が得られるよう、止水栓で調節します。

図7

